

# ぷらす

出居清太郎ワールドへのご招待

No.105  
2017・秋

前進し、向上しようぞ

## (1) 魂の躍動が愛

美しい花を美しいと眺めるだけでは愛ではない。

美しい花があれば、その花の育ちを、その花の努力を、自分の心の中にしっかりと刻みこんで、自らの努力と自らの育ちに役立ててこそ、花への愛がある。

花への愛で心が動かされ、心の扉がおし開かれる。とどまってはられない。人と人との愛もこのようでありたい。

愛による独占、愛による盲目、これらは

愛の、より真なるあり方ではない。愛による進歩、愛による向上、これがなくては真の愛とは言えない。愛は死よりも尊し、と私はよく語る。生死を超越した魂の躍動が愛だからこの言葉が出ている。

むつかしいことではない。今日一日、少しでも広い、温かい心を持てるように、その努力をすれば、愛はその人の心に次第次第に宿ってくるものである。

(出居清太郎先生の言葉から)

ドラマなどで、男性と女性との間で、「愛  
しています」「愛します」といった言葉が多  
く聞かれますが、何となく安っぽく聞こえ  
る場合があります。右の出居清太郎先生の  
言葉は、愛の、より崇高な意味内容を教え  
てくれています。

「生死を超越した魂の躍動が愛」とは、  
なんと意味深い「愛」の定義でしょうか。  
「魂の躍動」そこには、喜びにあふれた  
姿ばかりでなく、生き生きと前進し、成長  
する力強い姿が見られます。これこそ愛の  
素晴らしい意味合いではないでしょうか。

美しい花を、ただ美しいと眺めているだ  
けでは愛とは言えないと先生はおっしゃ  
います。その花の育ってきた過程を、その  
間の雨や嵐の日のことを、それらにじっと  
耐えて成長してきた花の姿を思いやり、そ

の努力を自らの糧として自分が成長して  
こそ花への愛だと先生は言われます。

人に対しても同じで、その人の欠点や古  
傷もそのまま受け容れ、その人の努力に敬  
意をはらい、共に前進し、成長しようと精  
進することが愛なのではないでしょうか。

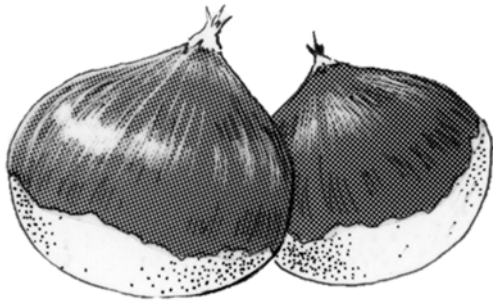
愛の中には、相手への尊敬も含まれてい  
るように思われます。出居清太郎先生が晩  
年に提唱されたのは「万霊万物尊愛」の精  
神でした。すべてを、尊び愛する。

そのような「愛する」ことは、そうしよ  
うとしてできるものではありません。その  
ような心が育つてなければできません。そ  
のような心が育つのは、周りの人を、批判  
の目で見めるのではなく、温かい思いやりの  
ある言葉をかけ、やさしく手助けすること  
を日々心掛けることの積み重ねによるの

だろーんと思います。

(2) 天のテープに記録される

言葉はその場かぎりでは消えていくものと思われている。文字は書き物、印刷物として残るが、言葉はそういう証拠を残さない。そこで人の世に「言った」「言わない」「聞いた」「聞き違いだ」という争いが起



カット 齋藤啓子

くる。

しかし、われわれの言葉は余すところなく天のテープに入っている。精緻をきわめた天のテープには、一音の漏れ落ちもなく一音の間違いもなく収められている。

善行も悪行も、必ずかえってくる。一つの行いをして、それがそのまま結末も見せずに行方知れずになってしまうことはない。

どのような誤解や悪口があろうとも、天が知っている。神が知っていてくださるから、おまかせすればよい。

(出居清太郎先生の言葉から)

「言った」「言わない」の水掛け論で終わってしまう話、先頃も国会の場で、証人喚問までしても「やむやまのままとしつこと

がありました。どちらかが嘘をついているわけですが、あるいは記憶違い、思い込みということもあるかも知れません。

それはともかく大事なことは、事実は一つであって、その事実は消えないこと、そしてその事実に見合う結果がいつか必ず現れるということなのです。言葉だけでなく行いも同じで、行ったことに見合う結果がいつか必ず現れる。

ありがとうという言葉を出していれば、いつか有難いと思える環境が与えられる、人を喜ばせる行いを重ねていけば、それは自分の喜びにつながっていく。そのように心が定まるならば、心を常に明るく強く

持っていられるのではないでしょうか。

## 編集後記

桐生祥秀選手が日本人として初めて百メートル9秒台の記録を出しました。この4年間の研鑽の集大成となりました。またこの記録達成の陰には、当日の風の吹き方を周到に観察し、追い風参考とならない瞬間を選んだ、ベテランスターターの職人芸があつたと聞きました。

セミの声から虫の音へ、自然の運行の確かさを感じます。

次号は3月1日発行です。(H・Y)

平成 29 年 10 月 1 日発行 ふゆのあり 694 号付録

ふらす α 平成 29 年秋号(通巻 105 号)

編集人 山本博也

発行所 〒170-0011

東京都豊島区池袋本町3-11-1

修養団捧誠会壮青少年委員会

TEL 03-3397-1149